

資料 3

平成23年7月8日

文責：千葉工業大学惑星探査研究センター・後藤和久

平成23年度第一回静岡県防災・原子力学術会議 津波対策分科会 資料

静岡県における津波堆積物の研究論文リスト（出版年順）

- 西仲秀人・熊谷博之・奥田 隆・鳥居龍晴・高野雅夫・中村俊夫, 1996, 浜名湖周辺の津波堆積物から探る過去の東海沖地震. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, VII, 193-212.
- 浅井大輔・今村文彦・首藤伸夫・高橋智幸, 1998, 伊豆半島入間における安政東海地震津波の波高と土砂移動. 海岸工学論文集, 45, 371-375.
- 都司嘉宣・岡村 眞・松岡裕美・村上嘉謙, 1998, 浜名湖の湖底堆積物中の津波痕跡調査. 歴史地震, no. 14, 101-113.
- 熊谷博之, 1999, 浜名湖周辺での東海沖の大地震に伴う津波堆積物の調査. 地学雑誌, 108, 424-432.
- 高田圭太・佐竹健司・寒川 旭・下川浩一・熊谷博之・後藤健一・原口 強, 2002, 静岡県西部湖西市における遠州灘沿岸低地の津波堆積物調査. 月刊地球, 24, 736-742.
- 高田圭太・佐竹健司・寒川 旭・下川浩一・熊谷博之・後藤健一・原口 強, 2002, 静岡県西部湖西市における遠州灘沿岸低地の津波堆積物調査（速報）. 活断層・古地震研究報告, no.2, 235-243, 産業技術総合研究所.
- 内田主税, 2002, 遠州灘沿岸, 静岡県大須賀町付近における沖積層中のイベント堆積物と古地形環境. 日本地理学会発表要旨集, 61, 135.
- 藤原治・平川一臣・金子浩之・杉山宏生・高田圭太, 2005, 静岡県伊東市北部の宇佐美遺跡に見られる津波（？）イベント堆積物. 日本第四紀学会講演要旨集, no. 35, 32-33.
- 藤原治・小松原純子・澤井祐紀, 2006, 静岡県浮島ヶ原の湿地堆積物に見られる層相変化と南海トラフ周辺の地震との関係（速報）. 活断層・古地震研究報告, 6, 89-106.
- 小松原純子・藤原治・鎌滝孝信, 2006, 南海・駿河および相模トラフ沿岸域における津波堆積物. 歴史地震, 21, 93-109.
- 小松原純子・藤原治・高田圭太・澤井祐紀・Than Tin Aung・鎌滝孝信, 2006, 沿岸低地堆積物に記録された歴史時代の津波と高潮—静岡県西部沿岸の例—. 月刊地球, 28, 527-531.
- 小松原純子・藤原治・高田圭太・澤井祐紀・Than Tin Aung・鎌滝孝信, 2006, 沿岸低地堆積物に記録された歴史時代の津波と高波：南海トラフ沿岸の例. 活断層・古地震研究報告, 6, 107-122

藤原治・小野映介・佐竹健治・澤井祐紀・海津正倫・矢田俊文・阿部恒平・池田哲哉・岡村行信・佐藤善輝・Than Tin Aung・内田淳一, 2007, 静岡県掛川市南部の横須賀湊跡に見られる1707年宝永地震の痕跡. 活断層・古地震研究報告, 7, 157-171.

Komatsubara, J., Fujiwara, O., 2007, Overview of Holocene tsunami deposits along the Nankai, Suruga, and Sagami Troughs, southwest Japan. Pure and Applied Geophysics, 164, 493-507.

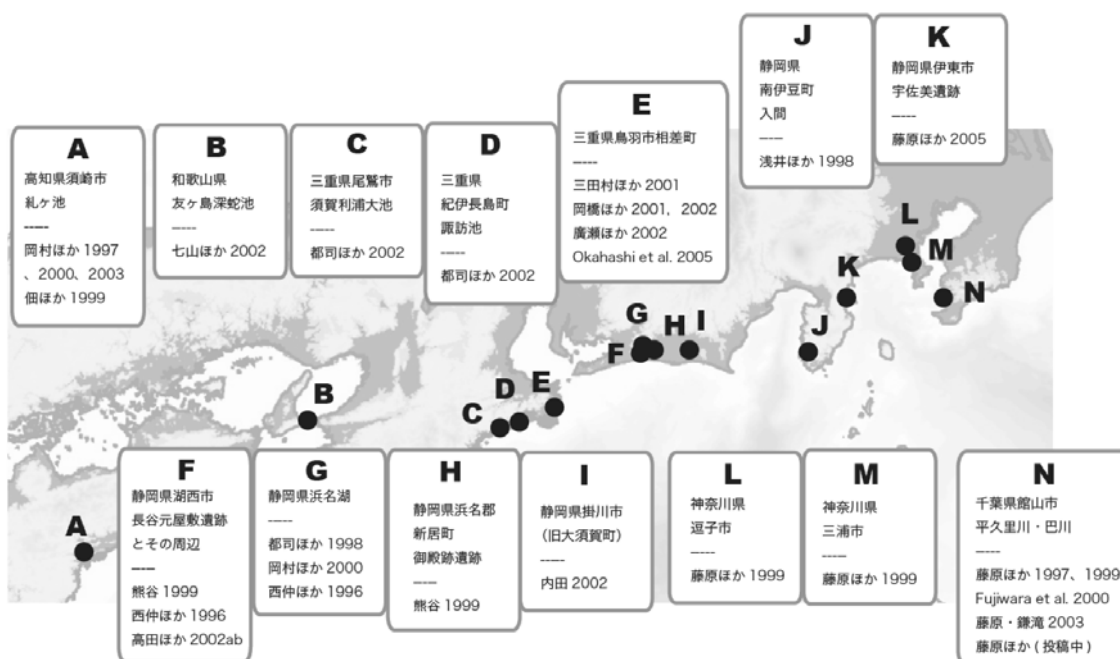
藤原治・小野映介・矢田俊文・海津正倫・鎌滝孝信・内田淳一, 2008, 完新世後半に於ける太田川低地南西部の環境変化と津波堆積物. 活断層・古地震研究報告, 8, 187-202.

Komatsubara, J., Fujiwara, O., Takada, K., Sawai, Y., Aung, T. T., Kamataki, T., 2008, Historical tsunamis and storms recorded in a coastal lowland, Shizuoka Prefecture, along the Pacific coast of Japan. Sedimentology, 55, 1703-1716.

藤原治・平川一臣・阿部恒平・入月俊明, 2009, 伊豆半島南端の入間に伝承された1854年安政東海地震. 歴史地震, 24, 1-6.

藤原治・佐藤善輝・小野映介・海津正倫, 2010, 浜名湖南東部岸の六間川低地で見られる約3400年前の津波堆積物. 日本地球惑星科学連合2010年大会, SSS027-P02.

参考となる図



2006年時点で、南海トラフ・駿河トラフ・相模トラフ沿岸から津波堆積物が報告された場所と主な文献. 小松原ほか (2006) にもとづく.